

轉て 教ぎょう

11

2019
Nov.

信のとびら

聴いて伝える

11月のご奉公のすすめ

11月のお寺の行事予定

9月のご奉公日誌

秋季彼岸総回向

日晨上人の思い出 その2

今年度のご奉公テーマ「助行のすすめ」

お助行あれこれ 根上信浄師

私のよろこび

ご縁に恵まれて

日常の種まきに

復活しました

後続者育成活動報告

こどもたちの会

佛立本旨講の信心3



佛立本旨講妙應寺

モデル：プリンちゃん
(水魚会・神野悦子さん)

聴きいて伝える



ご法門を聴聞する際の大切な心得は、人に勧める思いを

持つことです。佛立本旨講の

信心は「化他けた即そく自行じぎやう」といっ

て、人を教化し助けることが

ご奉公の中心です。題目口唱

も、病気全快や、心願成就と

いった我が身に対する祈りか

ら、人に教えを弘めるための

ご弘通ご奉公の口唱へと進む

ことが我々信者の役目です。

ですから、ご法門を聴聞す

るのも、我が身にご利益を頂

きたいためだけに聞く、とい

う態度ではよくないというこ

とです。ご法門の内容も様々

あります。自分の境遇に合わ

ないと、きちんと聞かない場

合があるかもしれません。し

かし、いつどんな境遇の方に

対して信心を勧めることにな

るかわかりません。この信心

は人に勧めるものなのだとい

う思いがあれば、お折伏の

様々な仕方を学ぶつもりにな

れます。そうすれば真剣にご
法門に耳を傾けられます。

長く信心していても、全て

のご法門を記憶されてる方は

いないでしょう。ですから、

まだまだ聴聞が足りないとい

得るべきです。長く信心して

いる方にはとくに、後続者の

育成という大事なご奉公があ

ります。人には、さまざま

考えや性格の方がいるもので

す。そういう人たちに適切に

信心を伝えようと思えば、よ

り一層ご法門聴聞につとめなければならぬでしょう。そうすることで、自身の信心がさらに磨かれるのです。新教化の方も一日でも早くご奉公の仕方を学び、度重ねてご法門を聞くと信心の用語にも慣れて理解できるようになります。

開導聖人はご教歌で、

へひろめんと

思ふ心のなき人は

きく法門も

そらぎきをする

学んだことを人に伝えることによつて、人にご利益の体験をさせることが出来るのです。特にご法門はお伝えすることによつて如来のお使いとしてご奉公させていただけれるのですから、これに勝る喜びと功德はありません。

自分のためと考えるより、信心を人に伝えようと心得ること、すると、ご法門は真剣に聞けるのです。教うるは学ぶの半ば、というように、どんな事も人に教えるにはそれだけしっかり勉強しなければ

と、ご法門聴聞の心得として人に信心を勧める思いを持つ事が大事ですよと、教えてくださっています。

信心は、「化他即自行」と心得ましょう。ご法門をそらぎきをするようなことでご利益は頂けません。ご法門は、人に伝えてこそ本当の聴聞になるのだと気持ちを含めてご奉公に励むことが大事です。

11月のご奉公のすすめ

今年度の御奉公テーマ「助行」

令和元年のご奉公をまとめ、
祥月助行や誕生日助行、詰め助
行や班長助行などの、お助行の

良き習慣を継続して来年の現証
御利益につなげましょう。

今月の「随喜轉教」

いつ何が起こるか判らない世
の中です。朝の一日無事息災の
祈願と夕方の無事御礼言上のお
看経に励む日々の積み重ねが、
いざという時に大きな力を発揮
してくれるでしょう。その積み

重ねの喜びと安心を家族や周囲
に伝えれば、それが随喜轉教の
ご奉公となります。毎日のお看
経に思いを込めて随喜轉教のご
奉公に励みましょう。

二、今月中に「高祖大士御尊像のお綿かけ」

お綿かけのご奉公は家族にも
手伝ってもらい、お敬いの信心
を次世代に伝えましょう。汚損
などがありましたら、お講師に
すぐ報告して下さい。

三、年末お塵払い

12月半ばまでには班内全信徒
宅の御本尊のお塵払いをすま
せ、御戒壇の裏まで綺麗にして
新しい年をむかえましょう。

来月の「ご奉公のポイント」

一、来年度への引継ぎ書類の準備

- ① 乙祥月御講報告書12ヶ月分
- ② 来年度の年間お講席主の予定表

③ 祈願集計表（お講師）

以上3点を12月25日までに受持
ち講師に提出できるよう準備し
て下さい。

四、年末年始の諸奉納について

12月26日（木）御炭代・御鏡
餅料奉納締切り。令和2年1月
31日（金）佛立本旨講初燈明料
奉納、初御供米料、寒供養奉納
締切り。毎日功德箱に御賽銭を

11月の寺内予定

1日～7日		開講本旨再興祈願朝参詣週間	
1日	金	開講本旨再興祈願総講	10時半
2日	土	運営会議	9時半
3日	日	口唱会（総務部、第二地区）	9時半
		若い人の口唱会	10時半
5日	火	信徒講習会①	9時半
9日	土	連合幹事会	9時半
		後続者育成連絡会	10時半
10日	日	団参・聞泉寺（三島）高祖会 担当第二地区	
		七五三無事養育成長御礼言上式申込メ切	
13日	水	高祖大土御命日総講	10時半
16日	土	信徒講習会②	9時半
17日	日	開導聖人御命日総講	10時半
23日	土	信徒講習会③	9時半
24日	日	七五三無事養育成長御礼言上式	11時
		蓮華会・くんげ会合同御講 申込メ切	
25日	月	門祖聖人御命日総講	10時半
		正副教区長会 第一地区 1階ホール/第二地区 和室/第三地区 2階ホール	12時半

入れ、それが積もり積もって大きな功德になる事を家族で話して下さい。

五、教区集合写真の撮影

3年ごとに撮影しています。11月、12月のお講席で撮影して下さい。カメラは弘通部でお貸ししますが、スマホで撮影して事務局宛にメールでお送り頂く事もできます。

宛先は

jimukyoku@nyooji.com

件名には

〇〇教区集合写真

〇月〇日〇〇席撮影

と記載して、お送りください。

秋季彼岸総回向奉修

これを機会に「回向をもつと！」

台風15号の爪痕も生々しい千葉県。幸いな事に六角堂では建物の被災はありませんでした。当日の御導師よりのご訓辞をご紹介します。

宝塔を簡略にしたものが塔婆です。塔婆の頭に妙法蓮華経をしたため、その下に先祖の戒名を記入すれば、法華経称賛の功德を先祖に送ることができます。

① お彼岸といえば、日本中でお墓参りや先祖回向を行なう習慣があります。我々信者にとって先祖回向は単なる伝統や習慣に留まりません。先祖回向に心を込めると、いじめなどの人間関係の悩みや病気などを克服する力が頂けるからです。しかし、信者でもそのことをよく知らない人が多くいます。特に次世代の方々にそのことを知らせる機会として、お彼岸は重要な行事と言えましょう。

「法華経が説かれるところには七宝の宝塔を建てて仏法を称賛しなさい。その塔の中には仏のお骨を安置する必要はない。なぜなら、法華経の教えの中にこそ仏の全身が備わっているのだから」と説かれています。この

③ お寺参詣するたびに、先祖回向と塔婆建立を習慣にするところが家族や次世代に定着すれば、それは妙法の御利益を目に見えて伝えることになるのです。このお彼岸をよい機会として妙法弘通の御奉公にはげみましょう。

② 法華経の法師品第十には、



目晨上人の思い出

渋谷港教区 Iさん

嫁いだ家の猛反対で仕方なく人形ケースの後ろにご本尊を隠して拝むこと三年。私は何をビクビクしているのか―先祖のご回向と現在みな幸せ健康を祈ることの何が悪いのかと、奮起決定しました。

今までのおさんげと御導師日晨上人の御題目をお聞かせして、おなぐさみ申し上げたい！それには甲御講の席主をとお戒壇、護持御本尊、御尊像、お道具を工面しながら年月をかけて



青葉台ご自宅(当時)での甲の御講。狩野派の掛け軸前でご法門を聴聞させていただきました。

やっとお願ひしたところ、『この団地では狭くてみんな入れないので無理です』と云われてしまいました。

どうしても諦めきれず、当時ではまだめずらしかったマンションを借りる約束をしました。が、今までの家賃が八倍もかかるのです。完成まで三ヶ月とのこと。家賃が上がった分、私が働けば…と決め仕事を探そうと思つた時、急に夫の昇進が決まり重役になったのです。なんの心配もなく転居、やっ并希望がかなつた甲御講は夢のようでした。『あの若かつた娘が甲の席主に…』と驚いて下さいました。

お講が終わって、お礼のお看經をあげ部屋を見渡すと、御宝前、家具、床、天井ありとあら

ゆるものがキラキラ星くずのよ8うに輝いてみえました。それから毎年甲席を頂くごとに生活レベルが上がって家を建てることになりました。当時、小親会おおせい場第一号と言われ、いつも多勢お参詣いただくようになりました。ただ一心に日晨上人のお題目を家の御宝前にお聞かせいただきたい―それが人生のレベルアップになっていったのです。

先日、日晨上人御法要の折り、ビデオに映つた最後のお写真、あのお講は我が家の甲席です。床の間の掛け軸の絵をゆつくりご鑑賞頂いたことが、なつかしく思い出されました。

日晨上人の思い出話、思い出のお写真などをお寄せください。来年度の三十七回忌に向かつて準備を進めております。

絆を深めて通って成錬

第一地区

日時… 令和元年9月28日(土)

参加者… 根緒泉溪師、水谷随欽師

参詣人数… 28名

鈴木静子姉(富里教区)講師より

○介護予防○脳トレ○熱中症予防の講習



東京五輪音頭を皆で踊る。石上美佐子さん(都教区)の長女、高校一年生みはなちゃんのおペラを歌っていただく予定でしたが、葬儀があり中止になりました。

一階ホールにて御供養を頂きながら連合教区を離れて皆さん和気あいあい楽しく過ごす事が出来ました。

第一地区地区長 岩渕千尋

鈴木静子さんのお話しの後、

真②)、最後は教わった振りを曲に合わせたのダンス、頭も体も思う存分に使う楽しい時間でした。お講師方の普段はみられないチャージングな瞬間も垣間見ることが出来、笑顔いっぱい笑い声いっぱいこの会となりました。体操の後は全員で御供養を頂きながら、和やかな時間を過ごし、明日からの活力を頂いた。錬成会となりました。

多摩連合 佐野亜希子

(9月21日(土))

第二地区

本堂でお看経、お講師の法話を頂いた後、2階ホールにて体操教室を開催しました。品川連合の五十嵐久美子さんとお嬢さんを講師にお迎えして、約30分楽しい汗をかきました。五十嵐久美子さんはモダンダンスを

専門としていらして、ダンスの要素のある、誰でも楽しめるプログラムを教えてくださいました。椅子に座つてのストレッチから始まり、ペアを組んでの手遊び歌(写真①)、左右の手でバラバラの動きをする体操(写



ご縁に恵まれて



私は、今は亡きお姑の御信心を相続させて頂きました。お姑とは同居していたので、私は家の家事に専念し、御信心は母がするといった感じでした。母が亡くなり、信心のことは分からないことばかりで、何もできずに困り果てていました。教区の役中さんに誘われて、御講席に参詣をしていましたが、いまひとつ気持ちが入りません。しかし、元号が令和に改められた記念すべき年に、団地の建て替えで、近所の新築住宅に移り住むことになりました。母の護持御本尊も汚れが酷ひどかったので、新たに御弘通御本尊を拝受させて頂きました。御本尊の御奉安も、連合の皆さんにお手伝いしてい

世田谷教区 Hさん

ただき、無事に御奉安させて頂くことができました。皆さんにお看経を上げていただいているとき、とても嬉しくなり、心からありがたさを感じました。お

日常の種まきに

最近、四歳の孫も御宝前に手を合わせたりしています。この間、私の体調が悪くマッサージチェアで休んでいたら、孫にばあ〜ばあこっちにきて、のんのさんを拝もうと起こされて御宝前に行き、一緒に拍子木をたいて拝みました。私は頭が痛いので短くお看経を済ませたら、今日は短いねといわれてし

給仕の講習も、お寺で受講させて頂きいただきましたので、初心の気持ちで毎朝お給仕させて頂いています。今年の夏期参詣も前向きに励まさせて頂きました。これからも、お寺や連合教区のご奉公に精進させていただきます。

目黒教区 Sさん

まいりました。しばらくしたら、頭痛も治まり体調もよくなりました。毎日、信行相続を思いお看経をしているのですが、この子が御信心を相続してくれると思ったら、こんな嬉しいことはありません。これからも健康に気を付けて孫の成長を見守りたいと思います。

私のよろこび

復活しました

この度、皆様に応援祈願をして頂いたお陰で、八月七日に、お寺で奉修された教区の御講に参詣させて頂くことが出来ました。病み上がりの私が一人で電車に乗り、お寺に参詣できたことを報告させていただきます。

思い起こせば三年前のお会式のご奉公以降に呼吸が苦しくなり、日常生活もつらい毎日でした。病院には通院しておりましたが、入院を勧められ、近くの順天堂病院で検査をしました。すると、心臓に問題があり、肺にも血栓があると診断され、酸素吸入等の治療をするようになりました。しかし、三ヶ月経っても改善されず、血管の治療を

練馬教区 Aさん

する専門医がいるお茶の水の順天堂病院に転院することになりました。担当医は「むくみが無くなるまで手術はできない」と言われ、歩行訓練、リハビリの毎日でした。

その後むくみも取れて、検査の結果、肺の血管を膨らませて流れをよくする手術を何回かに分けて受けるようにいわれました。手術をしないという選択もありましたが、一生酸素の管を付けて生活することを選ばず、手術することに決めました。

今年の一月、四月、五月と三回の手術を乗り越え、残すところあと一回の手術を控え、検査結果が良好であれば手術をしな

くても良いといわれました。現在は夜の間は、酸素の管を付けておりませんが、日中は管をはずして生活しても苦しくありません。

入院して以来ずっと、娘のまさみが御宝前のお給仕をして、当たり前のように朝夕のお看經を上げてくれます。家事の全てをして仕事に行っています。苦しい思いをしましたが、この病気をしたおかげで、笑顔で一緒にお寺参詣ができて、教区の方々とも接する機会が増えました。

息子も一ヶ月に一度は実家に孫と共に来て、御宝前に手を合わせてくれます。成長した孫たち、息子夫婦にこの喜びを伝え信行相続につながる様に祈願してまいります。

後続者育成 お助行報告

「六角堂で」

富里教区 Kさん



教区の御講と後続者育成助行

を併修して、教区内外共に沢山のお参詣をいただき、良いお看経を上げさせて頂きました。後

続者育成という事で、各教区いろいろな悩みを相談しあうことができました。

ご奉公のお役をいただきながら、実際は何も出来ず、上手く機能していない事。繋がりを持ってほしい人がいるが、コミュニケーションをとるには段階が必要で、その手はずは、誰がどの様にとっていくべきか、今は、仕事をずっと現役でやめられない時代である。その中で責任を持ってご奉公やお役を引

き受ける難しさ。

限られた人たちが、担っている現実。皆、それぞれの立場、



9月14日(土)、栃木教区のHさんの長男・M君が両親・祖母と一緒に妙應寺本堂に初参りに来られました。

初参りおめでとうございます



考えがあり、正しい答えなどないのですが、実際に話し合うことで、共感したり、ヒントをもらったり、まず、途切れることなくお助行を続けていく大切さを改めて感じさせられました。

9月29日(日)水戸教区Kさん席主で、水戸教区・栃木教区合同甲御講が奉修されました。

水戸・栃木 合同甲御講



お助行あれこれ

根上信浄師



昭和54年に初めて受持ちを頂

いてから、早いものでもう40年もの歳月が流れました。その間、さまざまな経験をさせていただきましたので、思い出すままにふり返ってみたいと思います。

信者宅の御宝前にたくさんのお看経があがるよう応援するのがお助行ですが、急病などの緊急事態への対応や、謗法を払うまでくりかえし伺う育成助行などの経験を通じて信心を教わってきました。驚くような現証の御利益を見せていただいたこともありましたが、私の印象に深く残っているのは残念な出来事

の方です。

ガンに侵されて悲嘆にくれるご家族をはげましにお助行に通いましたが、残念ながら病魔に勝てず、棺に取りすがって泣く奥さんを目の前に、何も言わずあげられなかったことがあります。この時の辛さといったら、思い出すと今でも胃が締め付けられるような感覚がよみがえります。

その一方で、謗法払いは出来ていたのか、懺悔の心を起こすようお折伏できたのか、自問自答しているうちに私の中にこの出来事が教訓として刻まれるの

です。そして次の機会にはこの経験を活かそうとひそかに決意します。

なかなか御指南通りには行きませんが、お助行先の家族、お助行する人たちの心が一つになった時、びっくりするような結果がでることもあります。これからも努力をつづけ、一人でも多くの方が参加して一杯御看経が上がるお助行ができるように努めていきたいと思っております。



竜の口ご法難記念 5時間口唱会



★こどもたちの会★

ぶつりゅうほんしこう しんじん 「佛立本旨講の信心3」

<p>という感謝の心になつて、笑顔で暮らす事です。</p> <p>ありがとうございます!</p> <p>⑥ 善い種まきとは</p>	<p>一口に言えばね</p> <p>ねえねえおばあちゃん、そもそも仏様の教えとはどんな内容なの?</p> <p>①</p>
<p>病気の事はかり考えて暮らしても、良くはならないでしょう?</p> <p>でも病気になった時は、笑顔になれるかなあ...</p> <p>⑦</p>	<p>悪い種まきをすれば、苦がやってくる。</p> <p>すれば、幸いが出て来る。</p> <p>② 善い種まきを</p>
<p>病気の経験が自分のプラスになる様に「ありがとうございます!」と声に出すのよ!</p> <p>たしかに! 元気が出そう!</p> <p>⑧</p>	<p>という因果の道理なんだよ。</p> <p>勉強を頑張れば、成績が上がるみたいな事?</p> <p>③</p>
<p>元気に、笑顔で言う方が!</p> <p>ありがとうございます!!</p> <p>⑨ 災難を嘆いて暮らすより、起きてしまった</p>	<p>まあ、そうね。だけど仏様の教えによると、因果の関係は、ずっと昔の過去世から繋がっているのよ。</p> <p>④ 過去の事なんて、覚えてないなあ。</p>
<p>それこそ、仏様の教えのお蔭ね!!</p> <p>話を聞いていたら、なんだか元気が出てきたよ!</p> <p>⑩</p>	<p>今、善い種まきをすれば、気持ちが変わる様に、気持ちは切り変えなさいと言っています。</p> <p>⑤ 災難の苦しみがあたら、その原因は過去にあるから、</p>

秋季彼岸総回向にあたって

お陰様で、台風15号の影響は建物にはありませんでした。植木や庭は大変な事になりましたが、係の皆様のご尽力で無事本日の秋季彼岸総回向を奉修させて頂く事ができました。ありがとうございます。

本日は皆様にお願ひがあります。この六角堂に納骨されている仏様の祥月御命日には、六角堂にご回向、御塔婆を是非とも御上げさせて頂きましよう。本駒込本堂には御上げされている方は多くいられます。

申し込みは先づけで、本駒込本堂寺務所で受け付けておりますので、よろしくお願ひします。



轉教

令和元年 11月1日発行 第20巻第11号 通算237号
編集兼発行人 山本久男
発行所 宗教法人 佛立本旨講 妙應寺
〒113-0021 東京都文京区本駒込6-6-11
TEL 03-5319-3490 FAX 03-5319-3491



<http://myooji.com>



info@myooji.com